

防災ビデオ

地域で減災!

あなたが力 みんなが力



自助

自分の身は
自分で守る



地域の力で
命を守る

共助



上映時間 24分

解説書付き

地域で減災!

あなたが力 みんなが力

企画意図

自然現象は防げなくても、被害は減らせる――。

いま「減災」の取組みが進められています。その基盤となるのが「自助」と「共助」。そして何より重要なのが、私たち自身の当事者意識です。「自助」「共助」の大切さを分かりやすく示し、地域防災への関心と参加意欲を呼び起こします。

内容

● 災害発生! その時どうする?

大地震に襲われる家族。激しい揺れ、飛散するガラス、転倒する大型家具……。緊急地震速報が流れる中、彼らのとった行動は? 突然襲いかかる大地震の恐怖をドラマで再現します。

● 「自助」: 自分の身は自分で守る

自然現象は防げなくても被害を減らすことはできる。それが「減災」という考え方です。減災の基盤となるのは「自助」と「共助」。そのうちまず重要となる、家の耐震補強や家具の固定などの「自助」の備えを示します。

● 「共助」: 地域で力を命を守る

「自助」とともに大切なのが、地域での助け合い、「共助」です。しかし、地域にどんな防災組織があるのか知らない人が多いのも事実。自主防災組織や消防団とは何なのかを、その活動の様子を交えて紹介します。

● 地域に広がる減災の輪

東村山地域安全サミットは、一般の市民が集まって立ち上げた団体です。現在の活動は、災害図上訓練(DIG)を通して地域住民の防災意識を高めること。消防、警察、行政も加わり着実に広がりつつある減災の輪。その様子を紹介します。

● まとめ

まず町を知り、住民どうしが顔の見える関係を作る。そうして築いた人のつながりが、災害に立ち向かう大きな力になります。「あなたが力、みんなが力」なのです。



監修 財団法人 市民防災研究所 理事 池上三喜子
スタッフ プロデューサー 川越英一/大谷啓一
脚本・監督 半谷守眞
撮影 越智光彦
企画・制作 東映株式会社 教育映像部
制作協力 株式会社パンフォーカス

撮影協力 株式会社 茂木商会/株式会社 丸二/吉祥寺東町四丁目
日光和会/吉祥寺東コミュニティセンター九浦の家/東京
消防庁東村山消防署/東村山市消防回第六分団/
警視庁東村山警察署/東村山地域安全サミット/国吉田
町内会/阪神淡路大震災記念 人と防災未来センター

防火防災教育ビデオ

監修 首都大学東京(東京都立大学)
都市環境学部(都市防災)教授
工学博士 中林一樹

推薦：全国消防長会

がんばってます！

自主防災

地域の力で減災



地域の助け合いの活動



町内会の中で
活動の場



少人数の助け合いが
災害に強い街をつくる

企画意図

自主防災組織は、阪神・淡路大震災以降、その活動が目目されてきました。実際、この大震災では、約3万5千人が倒壊した建物に埋もれたままになりましたが、このうち2万7千人(約8割)が、近隣住民の協力で救出されています。その後の大震災でも、町内会組織がしっかりしているところでは、犠牲者が少なく自主防災組織の有効性が浮き彫りになっています。しかし、自主防災組織作りは、全国的に増えてきましたが、組織はできて高齢化などで運営、活動が追いつかず、形だけになっているところも少なくありません。

そこで、この作品では、もう一度、自主防災組織のあり方を問いながら、活動内容の充実している地域を取り上げ、その日常の活動を具に捉えて災害に強い街づくりの必要性を訴えていくものです。

映学社作品

監修者・推薦の言葉

大規模災害の発生直後、初期消火、人命救助などで、大きな役割を果たすのが、地域住民でつくる自主防災組織です。阪神・淡路大震災を機に、全国各地で結成されていますが、活動状況を調べてみると、組織の多くは名前だけで定期的な訓練をしていないと明かすところも少なくありません。

イザという時、被害を最小限に食い止めることができるのは、近隣住民のネットワークです。

この作品は、工夫しながら活動している自主防災組織を取り上げ、実践型の訓練とは何か、組織を磨いていくこととは何かを推いて、自主防災組織づくりを学ぶには、最適な教材となっています。

首都大学東京 都市環境学部（都市防災）教授 工学博士 中林 一樹

作品の概要

■最近、重要視されている自主防災組織とは？

過天の様々な地震災害、火災の映像を重ねて—
災害を最小限にするためには、自分の身は自分で守る「自助」、消防や警察などの公的機関による「公助」、地域住民が助け合う「共助」の仕組みが重要である。この中で最近、重視されているのが「共助」である。「共助」を実現するための、地域住民による組織が「自主防災組織」だ。

■過去の災害で自主防災組織が力を発揮した実例

ここでは阪神・淡路大震災や新潟県中越沖地震での初期消火や人命救助に自主防災組織が大きな力を発揮したデータや被災者のインタビューなどを基に、災害時に於ける自主防災組織の重要性を訴える。

■都会の自主防災組織の活動

東京都世田谷区若林地区の自主防災組織の活動に密着。街の点検、防災マップづくり、情報収集・発信、問題の解決など活動内容を捉えていく。

■災害時要援護者の支援は？

災害時要援護者とは、高齢者、障害のある人など、災害が発生した場合に、一人で身の安全を守ることが難しい人のことである。

災害時要援護者には、どのような支援の方法があるのだろうか？名古屋市の自主防災組織では、地域住民がボランティアで、一人暮らしの高齢者宅を訪ね、家具の転倒防止の作業を行っている。

この目的は災害が起きた時、助け合う関係を作るためだ。

■防災訓練 多くの人に参加してもらうために

世田谷区の自主防災組織が催す「街かど防災教室」。住民が暮らしているすぐ側で小規模に行うことをモットーとし、地域住民の防災訓練への参加と、防災意識の向上に成功している。

各地で活発に活動する自主防災組織の活動や、行政主催の総合防火訓練の様相も描いていく。

監 修 首都大学東京(東京都立大学)
都市環境学部(都市防災)教授
工学博士 中林一樹

協 力 松美町内会(柏崎市)
若林町会 防災部(世田谷区)
東京消防庁 世田谷消防署

企画・製作統括 高木裕己

脚本・演出 川崎りい子

撮影：高橋哲也／選曲：YOKA／イラスト：正者傘子

制作・著作 株式会社映学社

¥68,250円(税込)

VHS・DVD [カラー25分]